

コロナ禍において、集団や社会との関わりがよく取りざたされています。こうした中、規律ある安定した社会の実現に努めなくてはならず、「公」に対する意識を希薄にしてはいけないと思います。この「公」を用いた言葉に「公德」があります。

「公德」は、社会を構成する一員として守るべき正しい徳目であり、集団や社会との関わりにおいて守るべき徳と言えます。

赤堀博行氏（帝京大学大学院教職研究科教授）は、著「道徳的価値の見方・考え方」において、次のように語られています。

「公德心」は「社会を構成する一員として守るべき正しい在り方を尊重しようとする心」
「公共心」は「社会全体のために尽くそうとする心であり、社会連帯の大切さを自覚する心」（中略）
このように考えると、
「公德心」とは、不特定多数の人々に対する思いやりと捉えることができる。

豊かな社会の構築のため、日々の生活において公德を大切にする態度を育てていきたいです。